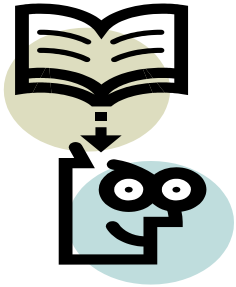


レポートや卒論のテーマを決めたら、関連する文献を集める必要があります。文献探索の方法のひとつに、「参考文献をたどる」方法があります。これは、テーマに関連する図書や論文の章末や巻末にある注記や参考文献リストから関連する別の文献を見つけて読み進めていくことです。「参考文献をたどる」方法を効果的に進めていくには、文献情報の記述ルールを理解しておくことが必要です。



参考文献から次々とテーマに関連する文献が探し出せるので、効果的な研究手段です。しかし、参考文献リストに表示された文献情報の記述ルールや、図書や雑誌論文の違いを理解していないと、関連する文献にはたどり着けないので、注意しましょう。

図書や学術雑誌掲載論文の違いを知り、文献情報を正しく読み取れるようにしましょう。

図書と雑誌の違いは・・・

図書	単数あるいは複数の著者の著作物で、単発で出版。シリーズで刊行されることも多い。1冊の図書の中に複数の論文が収録されていることもある。
雑誌	同じタイトルの下で、終期を予定せずに定期的に刊行され、一連の巻号が付与されている。各号には複数の論文や記事が収録されており、それぞれの論文や記事が独立した著作物である。

文献記述のルールはいくつかあり、記述方法が若干異なります。ここでは、和書の代表的な例と、洋書では“MLA(Modern Language Association)”と“APA(American Psychological Association)”が定めた2つのスタイルを紹介します。主に前者は文学などの人文科学系分野で、後者は心理学だけでなく、政治学や社会学、教育学などの社会科学系分野で採用されています。

### ★★図書★★

必須事項：1 著者名（編者名、訳者名、著作者としての団体名）、2 書名（「一」か「：」に続けて副題）、3【あれば】版表示やシリーズ・文庫名、4 出版地(日本国内なら省略されることが多い)、5 出版者、6 出版年

#### <和図書>

1 戸田山和久 2 『論文の教室：レポートから卒論まで』 3 新版 4 東京, NHK出版, 5 2012. 6

1 村田治 2 『現代日本の景気循環』 3 関西学院大学研究叢書 4 東京, 5 日本評論社, 6 2012.

\* 出版年が( )で括られていて著者名の直後に置かれている、『』を使わない、ページ数が書かれている、コンマやピリオドの使用の有無、など様々な表記方法があります。

## <洋図書>

1 2 3 4  
Gibaldi, Joseph. *MLA Handbook for Writers of Research Papers*. 7th ed. New York: The Modern Language Association of America, 2009. Print. (MLAスタイルの場合)

5 6 3 4  
1 6 2 3 4  
Gibaldi, J. (2009). *MLA handbook for writers of research papers* (7th ed.). New York, NY: The Modern Language Association of America. (APAスタイルの場合)  
5

- \* 著者名は、姓、コンマ、名前（APAはイニシャル）の順です。書名はイタリック体かアンダーラインを引き、APAでは書名と副題の最初だけ大文字になります。出版年の位置はMLAとAPAで異なります。
- \* 印刷物で出版された図書の電子版や、電子出版物の表記のルールも、MLAとAPAで異なりますので、詳しくは各スタイルのマニュアルを参照してください。

## ★★図書に含まれる1論文★★

必須事項： 1 著者名、 2 論文名、 3 編者名、 4 掲載書名（版表示やシリーズ名も併せて表記）、 5 出版地、 6 出版者、 7 出版年、 8 掲載ページ

## <和図書の一部分>

1 2 3 4  
丸本郁子 「図書館サービスとしての利用者教育の意義」 日本図書館学会研究委員会編 『図書館における利用者教育—理論と実際』 東京, 日外アソシエーツ, 1994, 7-30.  
5 6 7 8

- \* 一般に「」か” ” 内が論文か章名、『』内はその論文が含まれている書名になります。掲載ページは省略されることがあります。出版年や編者名の位置が違うなどの異なるスタイルが存在します。

## <洋図書の一部分>

1 2 4  
Cohen, Benjamin J. “The Macrofoundations of Monetary Power.” *International Monetary Power*. Ed. David M. Andrews. Ithaca: Cornell UP, 2006. 31-50. Print.  
3 5 6 7 8 (MLAの場合)  
8  
1 7 2 3  
Cohen, B.J. (2006). The macrofoundations of monetary power. In D.M. Andrews (Ed.), *International monetary power* (pp. 31-50). Ithaca, NY: Cornell University Press.  
4 8 5 6 (APAの場合)

- \* MLAでは論文名は” ” でくくりませんが、APAでは入れず、最初だけ大文字です。出版年だけでなく、編者名（著者とは異なり、姓は先に来ない）や掲載ページの位置や記述方法も異なります。APAでは掲載書名の前に In が入ります。



OPAC（オンライン目録）などでは、論文名や著者名で検索すると掲載されている図書が見つからないことがあります。必ず掲載されている図書の書名をキーワードにして検索しましょう。

## ★★学術雑誌掲載の1論文★★

必須事項： 1 著者名、 2 論文名、 3 掲載雑誌名、 4 掲載巻号、 5 刊行年(月)、 6 掲載ページ

### <和雑誌>

1 2 3 4 5  
中島定彦「選択行動における対応法則について」『人文論究』（関西学院大学）63(2), 2013, 6  
655-74.

1 2 3  
1 榎本修、小川泰治、川越総一郎「身体障害者療護施設におけるリハビリテーション」『総合  
リハビリテーション』 32(11), 2004, 1043-1048.  
4 5 6

\*論文名は「」か” ”に入れます。雑誌名は『』内。雑誌の場合、通常は出版者(社)は省略されますが、類似の雑誌名が多い時には（）に入れて記述されることもあります。また、掲載巻号を63巻2号と記述したり、掲載ページをp.55-74や55-74頁と表記したりという違いはあります。

### <洋(学術)雑誌=Journal Articles>

1 2  
Elbow, Peter. “Ranking, Evaluating, and Liking: Sorting Out Three Forms of  
Judgment.” *College English* 55 (1993): 187-206. Print. (MLAの場合)  
3 4 5 6

1 5 2  
Elbow, P. (1993). Ranking , evaluating, and liking: Sorting out three forms of  
judgment. *College English*, 55, 187-206. (APAの場合)  
3 4 6

APAでは、デジタルオブジェクト識別子(DOI)があれば、ページの後に doi: に続けてその番号を記載する。

- \*必ず論文名が先で、雑誌名は後の順になります。論文名は副題まで省略せずに表記し、APAでは最初だけ大文字にし、” ”でくくりません。雑誌名（APAでは巻号まで）はイタリック体にします。出版年や掲載ページ数などの位置や記述方法も異なります。
- \*印刷物で出版された雑誌に掲載された論文の電子版や、電子ジャーナルのみで出された論文の表記のルールも、MLAとAPAで異なりますので、詳しくは各スタイルのマニュアルを参照してください。

論文や記事のタイトルと掲載されている雑誌のタイトルを見分けられるようにしましょう。OPACなどでは論文名や著者名をキーワードにして検索することはできません。必ず雑誌名で検索しましょう。  
また、洋雑誌は略誌名で記述されることも多いので、注意してください。正式な雑誌名がわからない場合は、レファレンスカウンターでお尋ねください。



## ★★新聞記事・一般雑誌掲載の記事★★

必須事項： 1 著者名（あれば）、 2 記事名あるいは見出し、 3 新聞名・雑誌名、  
4 刊行年月日、 5 掲載面あるいは掲載ページ

### <日本語新聞>

<sup>2</sup>「スタンフォード大d.スクール—学部超え革新者育む（知の明日を築く）」<sup>3</sup> 『日本経済新聞』  
(朝刊) 2014年2月20日, 29面.

<sup>4</sup> <sup>5</sup>  
\*新聞記事では著者名が記述されていないことが一般的であるため、多くは記事名から書かれています。  
なお、日本語の文献では、一般雑誌の記事でも先述の学術雑誌と差別化されずに同じルールで記述されることが一般的なので、ここでは新聞の例だけを挙げました。

### <外国語新聞・洋(一般)雑誌=Newspaper or Magazine Articles>

<sup>1</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup>  
Halbfinger, David M. “Politicians Are Doing Hollywood Star Turns.” *New York Times*  
6 Feb. 2007, late. ed.: E1+. Print.

<sup>4</sup> <sup>5</sup>  
<sup>1</sup> <sup>2</sup>  
Weintraub, Arlene, and Laura Cohen. “A Thousand-Year Plan for Nuclear Waste.”  
*Business Week* 6 May 2002: 94-96. (以上MLAの場合)

<sup>3</sup> <sup>4</sup> <sup>5</sup>  
<sup>1</sup> <sup>4</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup>  
Halbfinger, D.M. (2007, February 6). Politicians are doing Hollywood star turns. *The New York Times* (Late ed.), p.E1, E7.

<sup>1</sup> <sup>4</sup> <sup>2</sup>  
Weintraub, A. & Cohen, L. (2002, May 6). A thousand-year plan for nuclear waste.  
*Business Week*, 3781, 94-96. (以上APAの場合)

<sup>3</sup> <sup>5</sup>  
\*主に米国では、学術雑誌(Journal)と一般雑誌(Magazine)は明確に区別され、一般雑誌の記事は新聞記事と同様に扱われます。一般雑誌の記事を記述する時には、刊行年月日を記載する必要があります(APAでは号も)。

\*インターネットやデータベースで提供されている新聞記事や雑誌記事の表記のルールも、MLAとAPAで異なりますので、詳しくは各スタイルのマニュアルを参照してください。

## ★★会議報告書(Proceedings)掲載の1論文★★

必須事項： 1 著者名、 2 論文・報告名、 3 会議報告書名、 4 編者(あれば)、 5 会議  
開催地、 6 開催期間、 7 主催機関(団体)名、 8 出版地、 9 出版者、 10  
出版年、 11 掲載ページ

### <和書>

<sup>1</sup> <sup>2</sup> <sup>3</sup>  
高橋文代「表情の同定に及ぼす色の効果-顔パーツの形状変化に対する表情認知閾」『日本心理  
学会第75回大会発表論文集』東京都日本大学文理学部, 2011-09-15/17. 日本心理学会大会  
準備委員会. 東京, 日本心理学会. 2011, 702. <sup>5</sup> <sup>6</sup> <sup>7</sup>  
<sup>8</sup> <sup>9</sup> <sup>10</sup> <sup>11</sup>

## <洋書>

1 2 3 & 7  
Mann, Jill. "Chaucer and the 'Woman Question.'" *This Noble Craft: Proceedings of the Tenth Research Symposium of the Dutch and Belgian University Teachers of Old and Middle English and Historical Linguistics, Utrecht, 19-20 January 1989*. Ed. Erik Kooper. Amsterdam: Rodopi, 1991, 173-88. 5 6  
4 8 9 10 11

(MLAの場合)

1 10 2 4 3 & 7  
Mann, J. (1991). Chaucer and the 'Woman question.' In E. Kooper (Ed.), *This noble craft: Proceedings of the tenth research symposium of the Dutch and Belgian University Teachers of Old and Middle English and Historical Linguistics, Utrecht, 19-20 January 1989*. (pp.173-188) Amsterdam: Rodopi. 5  
6 11 8 9

(APAの場合)

- \*会議報告書掲載の1論文は基本的に「図書に含まれる1論文」として扱われるため、同じ記述方法が取られます。洋書の例は、会議開催団体名・開催地・開催年月がすべて会議報告書名に含まれていますが、そうではない場合は、会議報告書名の後に記述します。
- \*会議報告書（会議録、発表論文集などの名称になっている場合も多い）は、開催年や回がタイトルについて1冊の図書として扱われたり、毎年出版される年刊の雑誌として扱われたりするため、注意が必要です。

## ★★インターネット情報（ウェブページや動画サイトなど）★★

必須事項：1 著者名（あれば）、2 ウェブページのタイトル、3 ウェブサイトの名称あるいは管理者名、4 更新日付（分かれば）、5 URL、6 アクセスした日

1 2 3  
日本図書館協会 「図書館の自由に関する宣言」公益社団法人日本図書館協会  
<<http://www.jla.or.jp/library/gudeline/tabid/232/Default.aspx>> (参照：2014-03-17)  
4 5

1 2  
Eaves, Morris, Robert Essick, and Joseph Viscomi, eds. *The William Blake Archive*. Lib. of Cong., 28 Sept. 2007. Web. 17 Mar. 2014.  
<<http://www.blakearchive.org/blake/>> 3 4 6

(MLAの場合)

5  
1 4 2  
Lee, C. (2010, November 18). How to cite something you found on a website in APA style [Blog post]. Retrieved from <http://blog.apastyle.org/apastyle/2010/11/how-to-cite-something-you-found-on-a-website-in-apa-style.html> 5

(APAの場合)



ウェブサイトなどのインターネット情報を参照するケースが増えています。引用する際にはURLやアクセスした日を記述するようにしましょう。



また、百科事典や書評、学位論文、判例、政府資料などの項目（印刷物あるいは電子版）を引用する場合にも、それぞれ記述方法があります。

皆さんが書いたレポートや論文に他の文献を引用したり、参考文献リストをつけたりするためには、決まったルールに則って記述する必要があります。参考文献の記述の方法は、レポート作成の手引書などに載っていますので、参考にしてください。大学図書館では「レポート・論文作成関連図書」コーナーを設けています。

著作権法第32条により、研究目的で、自分が書いた論文などに他人の著作物を引用することができます。その場合、引用部分を「」に入れるなどして引用したことがわかるようにした上で、必ず典拠を示さなければなりません。典拠を注として表示したり、参考文献リストをつけたりする場合には、決まった記述ルールに従うことが必要です。



【付録】洋書などの注記や参考文献欄によく見られる略語に、次のようなものがあります。

app.	appendix（付録）	cf.	confer（比較、参照）
diss.	dissertation（博士論文）	ed.	editor（編者複数はeds.） edition（版）
ed. cit.	edition citata（前掲書）	e.g.	exempli gratia（例えば）
et al.	et alii（およびその他の著者）	fac.	facsim（復刻版、複製版）
ibid.	ibidem（同書に）	id.	idem（同上の、同著者の）
i.e.	id est（すなわち）	n.d.	no date given（出版年月日不明）
n.p.	no place given（出版地不明）	n.pag.	no pagination（ページ数なし）
op. cit.	opere citare（前掲書）	pl.	plate（図版）、plural（複数）
rev.	revised（改訂された）	sic	thus in the source（原文のまま）
suppl.	supplement（増刊、補遺）	vol.	volume（巻）

#### 【参照文献】

##### <和図書>

- 河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版 慶應義塾大学出版会, 2010.  
(上ケ原3F図書 458.6 : 129(3))
- 藤田節子『レポート・論文作成のための引用・参考文献の書き方』日外アソシエーツ, 2009.  
(上ケ原3F図書 458.6 : 286)
- ジョゼフ F.トリマー(丸橋良雄,日高真帆 共訳)『MLA英語論文作成ガイド：補遺・APA方式』英光社, 2011.  
(上ケ原3F図書 808.9 : 772)
- アメリカ心理学会(前田樹海(他) 訳)『APA論文作成マニュアル』第2版 医学書院, 2011  
(上ケ原3F図書 150.7 : 321(2))

##### <洋図書>

- Gibaldi, Joseph. *MLA Handbook for Writers of Research Papers*. 7th ed. New York: The Modern Language Association of America, 2009. (上ケ原3F図書 808.9 : 349 : 2009)
- Lipson, Charles. *Cite Right: A Quick Guide to Citation Styles-MLA, APA, Chicago, the Sciences, Professions, and More*. 2nd ed. Chicago: The University of Chicago Press, 2011. (上ケ原3F図書 808.9 : 828)
- Publication Manual of the American Psychological Association*. 6th ed. Washington, DC: American Psychological Association, 2010. (上ケ原3F図書 808.9 : 243 : 2010)